

事業所名

まごころ

児童発達 支援プログラム

作成日

令和7 年

3 月

18 日

法人（事業所）理念		子どもたちの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善、克服するため適切な指導及び必要な支援を行う。						
支援方針		一人ひとりの発達状況に着目し、個性を大切にした療育 1・癒しの場所 2・心のケアをする場所 3・信頼関係を築く場所						
営業時間		9:00	～	17:00	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	生活リズムを整えて、心身ともに安定させることで、情緒面の安定を図ります。また、健康面では身体の状況や検温等も含めて、視診をしていき、身体の状況を把握して、健康状況の把握に努めていきます。また、身体測定を取り入れています。						
	運動・感覚	体幹トレーニングを行い、未就学では朝の体操や、サーキット等を取り入れています。姿勢を整えて個別を行う事や、マット運動、ボール、体力作りを行っています。夏場では、戸外活動が多く、公園や水遊び、散歩、冬場は、室内での戸外運動、雪遊び、散歩を取り入れています。体育館を借りて運動も行っています						
	認知・行動	知育玩具（ポットン落とし、型ハメパズル等・びったりカード等）感覚遊び（スライム・片栗粉粘土・水ビーズ等）を取り入れています。また、色の認知や、大小、数字等を使ったゲームや絵本を用いり行っています。買い物体験等を通して食材や、お金の認知も行います。						
	言語コミュニケーション	言語療法士を取り入れて、専門的に言語療法士と個別で、言葉の教室を取り入れて言語療法を伸ばしています。また、日常での挨拶、活動に入る前の、始まり・終わりのメリハリをつけていたり、1日の中での感じたことを発表する場を設けています。未就学児では、個別を用いて、職員と1対1での個別を行っている。放課後では、自発的な会話力やディスカッション等を通して考える力・自分の意思を伝える力を身に付けています。人と人との関係性を構築するための取得						
	人間関係社会性	人と人が関わる為に必要になってくる、人間関係のマナーであったり、人に対しての行動や言葉等を取得するために、子ども同士で刺激をお互いに吸収し合える環境作りや、居場所を作りながら、解決していくようにしています。必要に応じて、職員が見守りや、仲介に入りながらできる限り子どもを主体として構築できるようにしています。またその中で、実践を交えながら、善悪を身につけたり、人との距離感やマナー等を、多くの時間と多くの人との関わりを通して取得しています。						
家族支援		情報を密に共有していき、送迎時の伝達や、連絡ノートを活用しながら、必要に応じて電話対応や面談を取り入れています。また、心配ごとなどはその状況に応じて迅速に対応し取り除いて、信用信頼を得られるようにしています。			移行支援		保育園・幼稚園将来的な移行を見据えての情報共有や、併用している先の支援の擦り合わせも行い、スムーズに進められるようにしています。	
地域支援・地域連携		各機関との連携を図ることや、町内の行事に参加を進んで行き、また、地域の人々と関わりをもてるように行事を通して行っています。また、多様性を活かし、国際交流等も取り入れて良好に地域の交流を図れるようにしています。			職員の質の向上		専門性が持てるように、研修を取り組んだり、統一を持つるよう意識付けを行っています。また、事業所の月一会議通し、職員の連携を図っています。また、系列事業所との合同研修も行っています。	
主な行事等		季節の行事（節分・ひな祭り・夏祭り・ハロウィン・クリスマス等）を大切にしています。また、外出レク・調理レク・戸外活動・収穫祭（公園・散歩・雪遊び・水遊び）また、避難訓練なども取り入れています。月の行事を保護者に配り、日々マンネリ化にならないように曜日・日ごとでレク活動を設けています。レクの活動としては、静と動のメリハリも含めた内容を組み込み行っています。						